

高砂市歴史文化基本構想について

兵庫県高砂市教育委員会

1. 高砂市歴史文化基本構想の骨子

はじめに

- (1) 構想の背景、目的
- (2) 構想の位置づけ、基本理念
- (3) 構想の策定方法：市民参加

1. 高砂市の歴史文化の特性

- (1) 自然地形
- (2) 歴史、通史
- (3) 文化財の現状
- (4) 歴史文化の特性

2. 高砂市の歴史文化に係る

テーマとストーリーの設定

- (1) 歴史文化に係るテーマの設定 4つのテーマ
- (2) テーマにもとづく歴史文化のストーリー

○テーマに沿って歴史文化を辿ることで、高砂の個性的な自然や地勢、文化交流拠点であった歴史的役割を再確認する。
○市民が高砂に誇りを見だし、高砂の将来を肯定的に考えるための視点を提供。

3. 構想の基本方針

- (1) 歴史文化を活かした高砂市の将来目標像

高砂の豊かな自然、歴史的に果たしてきた役割を受け継ぎ再生する。このことにより、市民が高砂に誇りを持つと同時に、高砂に魅力を感じる人を増やし、賑わいと交流を生み出す。

- (2) 目標実現に向けた歴史文化の活用方針

○いま身近にある資源の再発見、顕在化
○失われたが記憶に強く残る資源の再生
○歴史文化が濃密に残る旧市街地のまちづくり

4. 関連文化財群と保存活用区域

- (1) テーマにもとづく関連文化財群の設定
- (2) 保存活用区域の考え方・区域の設定

5. 関連文化財群の保存活用計画

- (1) 保存活用の基本的な考え方 文化財保護と市民遺産
- (2) 関連文化財群ごとの保存活用計画

○テーマごとに象徴的・代表的なものを指定文化財として保存。
○テーマにより連結する資源を登録制度等を活用し関連性を顕在化。
○「竜山遺産」など市民遺産制度により身近な遺産の再発見を行い、その存在や分布の広がりなどの顕在化を図る。

6. 構想の実現に向けた進め方

- (1) 基本方針

普及啓発とまちづくりの二本立てで進める。

- (2) 普及啓発方策

○学校教育(副読本や教材)や社会教育による普及啓発
○全市的な資源発掘のまちあるき活動の展開による普及啓発

- (3) まちづくり方策

みなとまちづくり構想行動計画と連携し、旧市街地(みなとのまち)を核とした歴史を活かしたまちづくりを進める。

- (4) 実現工程と導入事業

地域伝統文化総合活性化事業の活用を想定
(まちあるきによる資源発掘、歴史を活かしたまちづくり検討など)

7. 構想の担い手育成

- (1) 基本方針

体制づくり、人材育成、仕組みづくり

- (2) 推進体制

文化財と都市整備が連携した推進体制

- (3) 市民担い手の育成

構想策定の中で試験的に、テーマに添った資源発見型の様々なまちあるきを行い、担い手育成の実験を行っている。

- (4) 仕組みづくり

上記の試みなどを通して行政と市民による推進体制をつくる。

2-1. 高砂市の歴史文化のテーマ

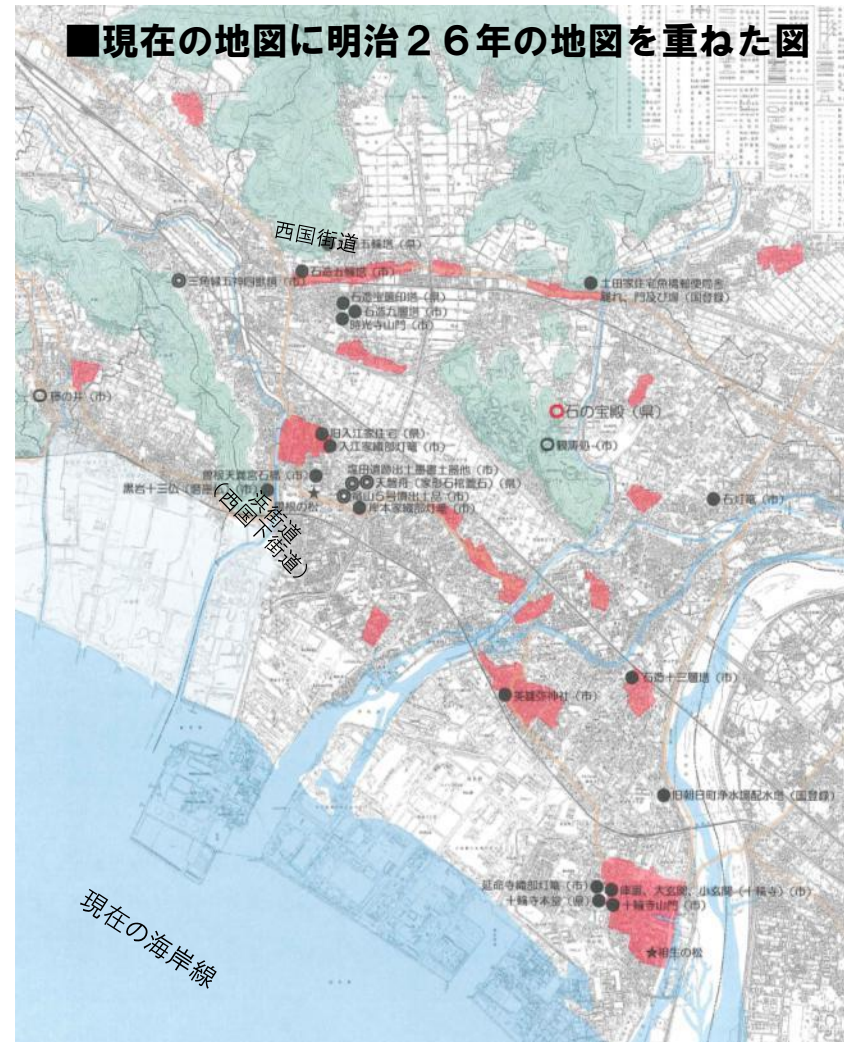
高砂の個性的な地勢：やま(竜山)、うみ(播磨灘)、それをつなぐかわ(加古川と支流)が生み出した関連文化財群



凡例

- 建造物や工作物
- 史跡
- ◎ 考古資料
- ★ 旧国指定天然記念物

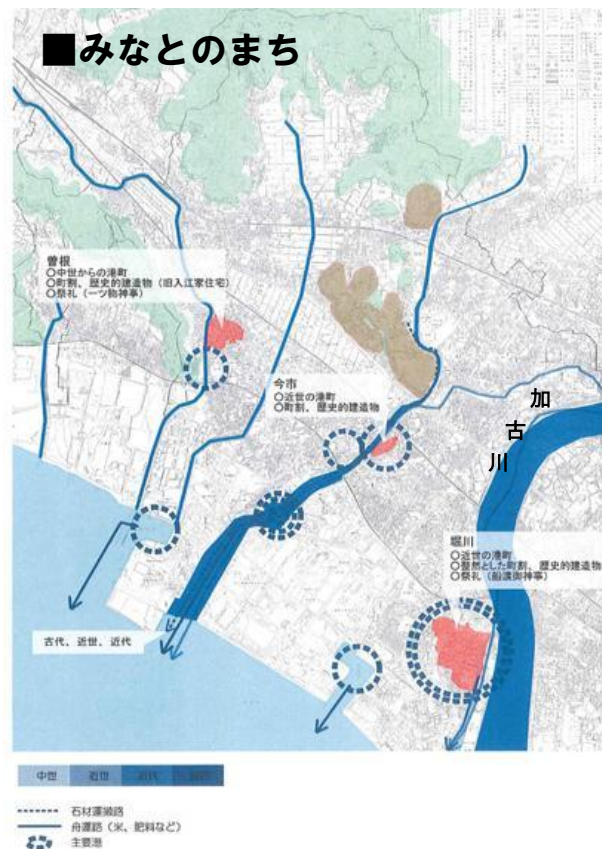
出典：高砂市 指定文化財一覧 平成 21 年 3 月 24 日現在（高砂市作成）



2-2. 高砂市の歴史文化のテーマ

高砂の個性的な地勢：やま(竜山)、うみ(播磨灘)、それをつなぐかわ(加古川と支流)が生み出した関連文化財群

➡やまの資源(竜山石の文化)、かわの資源(みなとのまち)、うみの資源(白砂青松・塩づくり)



テーマに沿って歴史文化を辿ることです…

- 市民が高砂の個性的な自然や地勢、文化交流拠点であった歴史的役割を再確認する
- 市民が高砂に誇りを見だし、高砂の将来を肯定的に考えるための視点をもつようになる

3. 高砂市の歴史文化資源の保存活用計画の考え方

高砂市の目標像

高砂の豊かな自然、歴史的に果たしてきた役割を受け継ぎ再生
市民が高砂に誇りを持つと同時に
高砂に魅力を感じる人を増やし、賑わいと交流を生み出す。

再発見と再生

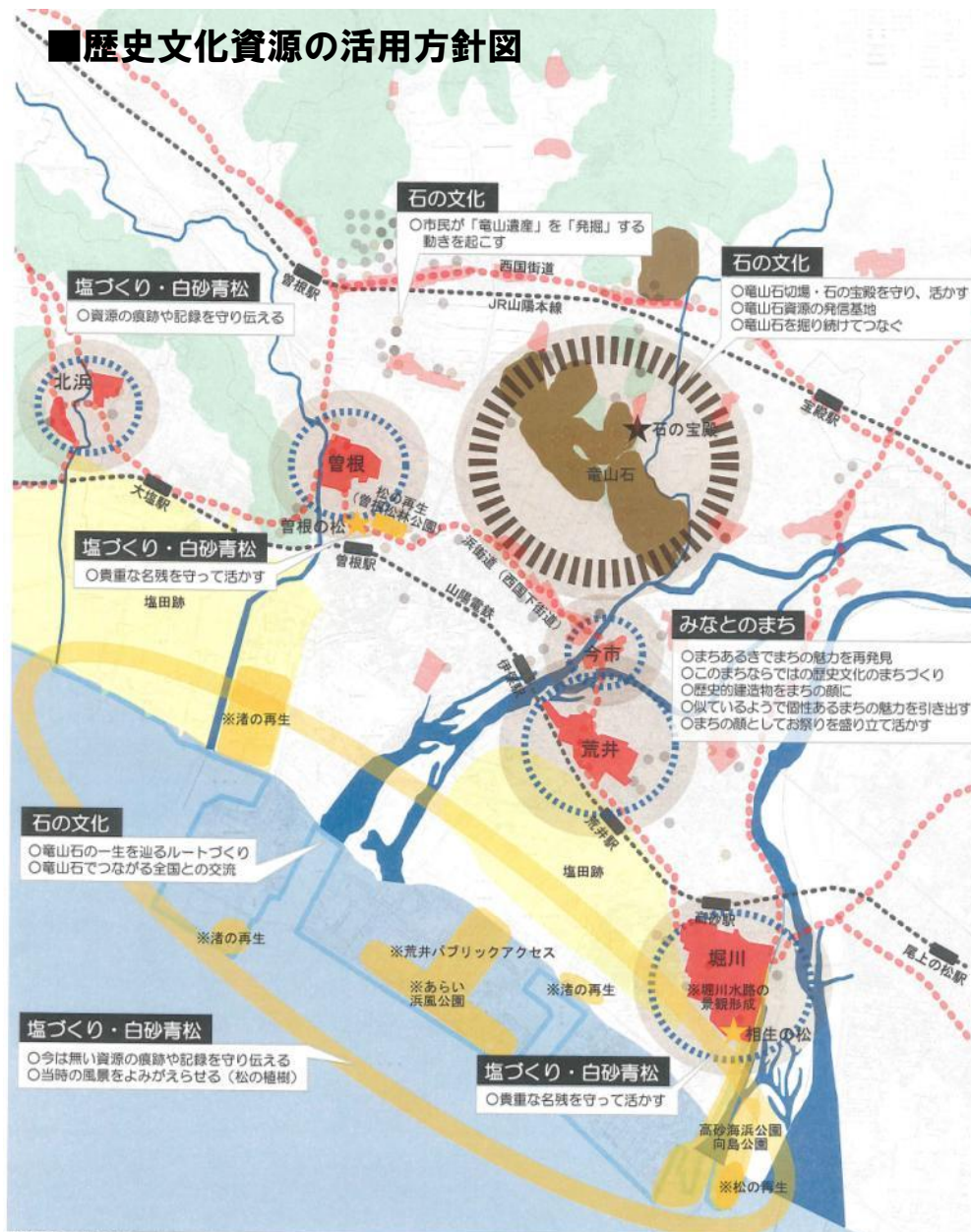
- 身近にある資源の価値の顕在化(石の文化)
- 失われつつある資源の記憶を留め再生(白砂青松・塩づくり)
- 両者を繋ぐ象徴的な地域における歴史文化資源の面的な保存活用(みなとのまち)

文化財保護と市民遺産

- テーマごとに象徴的・代表的なものを指定文化財として保存
- テーマにより連結する資源を登録制度等を活用し関連性を顕在化
- その他「竜山遺産」など市民遺産制度により身近な遺産の再発見を行い、その存在や分布の広がりなどの顕在化を図る

テーマ	保存（活用）の方策
石の文化	○核となる資源(石の宝殿、竜山石切場)は指定文化財として保存し公開する。また周辺環境の保全整備に努める。 ○石の文化の、年代、用途、地域ごとの広がりを明らかにするために、それぞれを象徴する資源を保存し公開する。 ○その他の資源は市内全域に無数に存在するため、市民で発掘し、市民遺産(竜山遺産)として顕彰し、その活用を図る。その後、資源の価値に応じて指定へ移行する場合もある。
みなとのまち	○それぞれ異なる個性をもつまちごとに、歴史的建造物群、町割り、祭礼などを面的に捉えて、総合的に保存する。その他の建造物や周辺環境等は景観形成等により保全を図る。 ○それぞれのまちの祭礼を指定文化財として保存・継承する。 ○それぞれのまちを象徴する歴史的建造物は、指定、登録等により保存、公開を図ることで、その存在を顕在化させ、お互いの比較等を通して、まちの成立ちや歴史が際立つようになる。
白砂青松 塩づくり	○対象となる資源が存在しないため、その記録や痕跡を、歴史資料などの文化財として保存し、公開する。 ○市民が高砂らしさの拠り所とする記憶や記録を発掘し、顕彰して、価値あるものとして継承する。

歴史文化資源の活用方針図



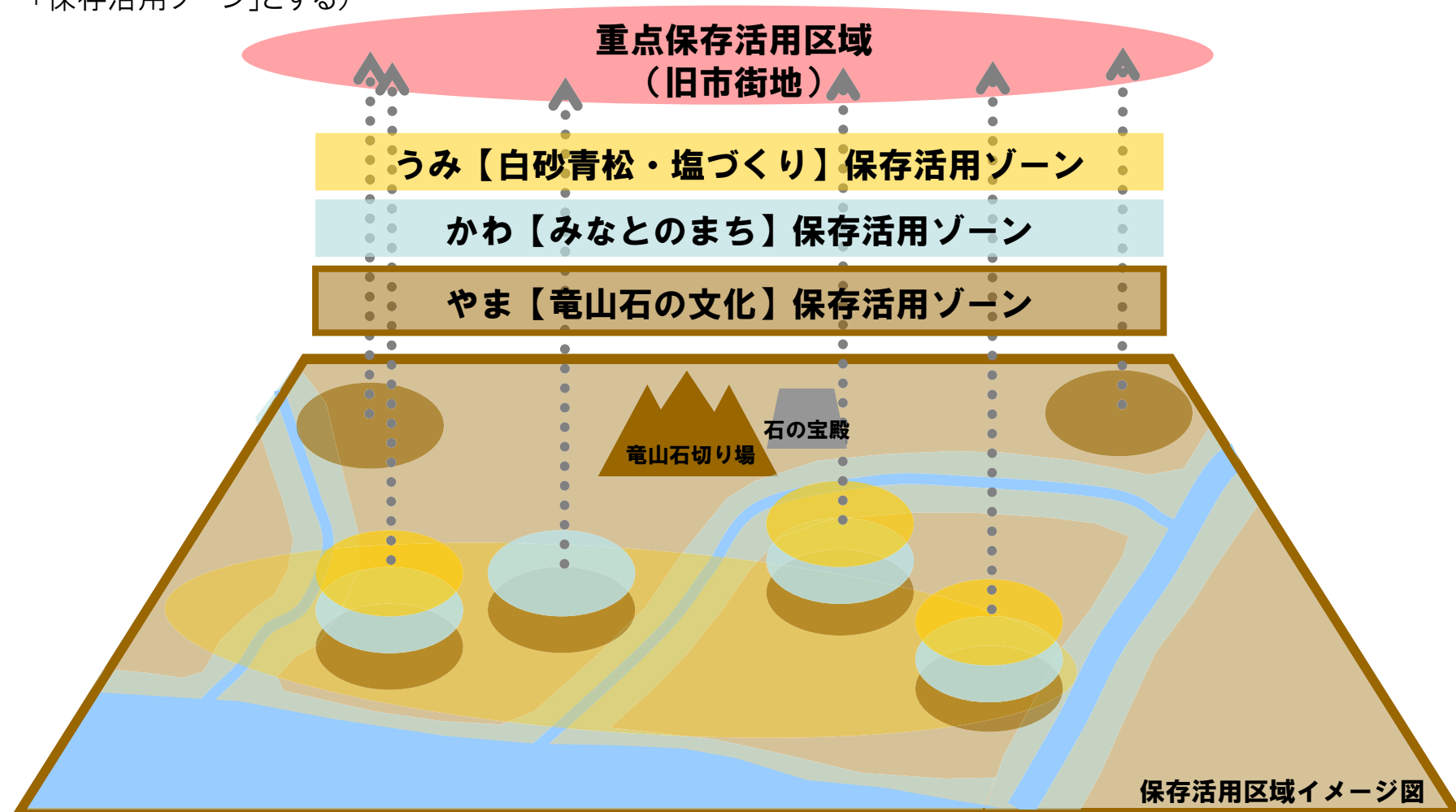
明治26年の地図(出典:高砂市環境情報地図集、大日本帝国陸地測量部)を基に(一部想定を含む)、一定の等高線以上の山、河川、市街地に色を付けたものです。
※高砂市みなとまちづくり構想図より引用

4. 高砂市の保存活用区域の考え方

○「石の文化」の資源は市域全域に広がる。

○「みなとのまち」の資源は旧市街地の区域に、集約的、面的に存在しており、区域設定も明確であるため「重点保存活用区域」と設定し、保存活用を図る。

○「白砂青松」「塩づくり」の資源は旧海岸線一帯に広がりを持って分布する。これらの資源は広い範囲で捉え、その存在を明らかとして、関連性を持って保存活用を図る。（資源の分布が広域に渡り、区域が明確に設定できないため「保存活用ゾーン」とする）



5. 歴史文化資源の担い手育成

- 全市的な広がりを持つ資源を発掘・活用していく「テーマ型」の活動と、旧市街地を対象としてまちづくりの中で保存活用を行う「地縁型」の活動が連携し、担い手となる体制を目指す。前者の活動を支援するため「市民遺産」の制度を検討する。
- 構想策定の中で、専門部会と地域住民等の参加により、テーマに基づく歴史文化資源を自ら発掘する「まちあるき」を開催し、参加者の意識を高めるとともに、担い手育成に向けた実験的な試みとしている。

■曾根まちあるき

テーマを手がかりに、曾根地区の歴史文化資源を参加者自らが発見するまちあるきを実施



【地元団体】

ひょうごヘリテージ機構H20東播、高砂歴史ガイドクラブ、曾根のまち探友会、荒井ふるさと再発見隊、たんうトレイル伊保

■荒井・今市 勉強会

旧市街地の歴史を活かしたまちづくりにおいて、テーマに添った歴史文化資源をどう保存活用するかについて勉強会を実施



■今後の取り組み

【構想策定期間】

- たかさご万灯祭：来街者による高砂の資源発掘、地元との交流
- 市民向けフォーラム

【来年度以降】

- テーマに沿った資源を発掘するまちあるきの継続開催、開催母体となる組織づくり

